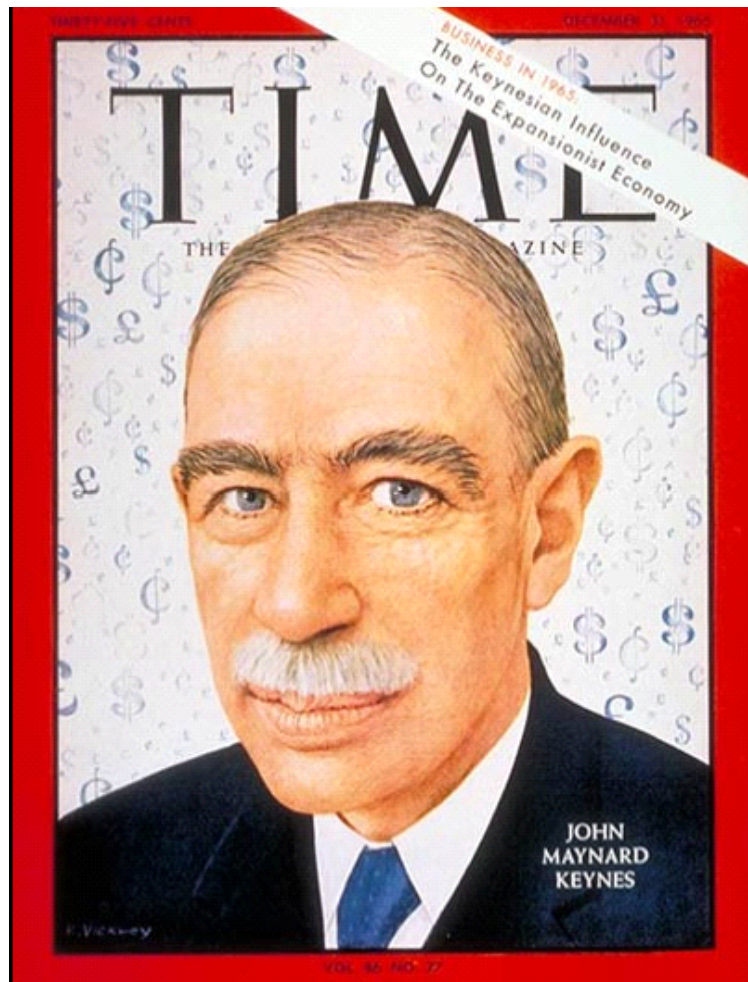


生まれ出た魚は飛び跳ねました

2021/10/26



NHKの講座のみなさま こんにちは。いよいよ、明後日は、《影のない女》の第2回です。作曲家のリヒャルト・シュトラウスと台本作者のホフマンスタールが、この楽劇《影のない女》の製作にとり掛かったのが1914年でした。3年後の1917年6月に完成して、1919年10月10日に、リヒャルト・シュトラウスが総監督に就任したばかりのウィーン国立劇場で初演されました。第1次世界大戦が始まったのが1914年7月で、終わったのが1918年でした。翌年の1919年にフランスでヴェルサイユ条約が締結されました。第1次世界大戦の発生と終焉と期を同じくする楽劇《影のない女》は、第1次世界大戦の落とし子でもあります。すなわち、第1次世界大戦の寓話です。

戦争が終わった1918年の翌年の1919年、戦勝国の一つフランスのパリで戦後処理の「ヴェルサイユ講和会議」が開かれました。勝った連合国側の最優先の懸案は、「連合国とその民間人が支払った費用と陸海空におけるドイツの

侵略行為によって生じた被害のすべてをドイツに弁償させること」でした。すなわち、このベルサイユ会議の目的は、戦勝国にとって、戦争で破綻した自国経済をたてなおし、ドイツを貧しい田舎国家に落ちぶれさせることでした。具体的には、「ドイツは重要工業地帯をふくむ領土の六分の一を割譲。植民地と国外における権利の一切を放棄。軍備は制限され、空軍と潜水艦の保有は禁止。加えて、天文学的数字である 1320 億金貨マルクの賠償金を支払う」と言うものでした。

この会議にイギリスの大蔵省の役人として出席していたケインズは、「ドイツ自体がすでに経済破綻していたことや、経済破綻したからこそ降伏したこと、課税や借入によって賠償金を調達できないこと」などを指摘しました。ベルサイユ条約が要求した賠償総額はドイツの支払能力を遙かに越えていました。ケインズは、「ドイツはその余剰生産のすべてを、永久に連合国に引き渡すことを約束したも同然だった」といって、「この条約は、文明史上、残虐な勝利者によるもっとも非情な行為の一つだ」と弾劾しました。1919 年の 6 月 28 日に早々とドイツとの講和のみが処理されて、ケインズはひとり反対したにもかかわらず締結されてしまいました。この非人道的な条約に我慢が来ず、帰国後直ぐに、批判の書『平和の経済的帰結』を書き 11 月に出版しました。ここで、ケインズは、楽劇《影のない女》のバラク役を務めます。

主人公バラクは、働き者の染め物屋で、弟たち三人と一緒に働いています。疲弊した戦後の国と国民を復興しようとするところざしある若者です。布を求める人たちの好む色に染め上げては、街の市場へ売りに行きます。お金を稼いで来ては、家を焼かれ職を失って飢えている同盟国の国民たちを集めてはご馳走して喜んでいきます。三人の弟たちは、どれも不具者で、片手と片目と腰の曲がった男たちです。これは、大戦で怪我をした兵士たちです。働く術を失って、まともに稼げないので兄の世話になっているのです。このバラクの国と国民に対する献身的な行為に心打たれた皇后は、人間から影を奪うことをあきらめます。「私は自らを犠牲にすることを人間から学びました。自分だけが幸せになるために、人間と取引してまで影を手に入れようとは思いません」。終幕で、生まれ出た魚は飛び跳ねました。

でも、現実の 1919 年のウィーン国立歌劇場での《影のない女》の初演のそのとき、ドイツもオーストリアも、この年に行われた熾烈なベルサイユ条約の締結で、ハッピー・エンディングどころか、「文明史上、残虐な勝利者によるもっとも非情な条約」のもとで、人と人とを結ぶ絆はすべて解かれていたのです。二人の天才楽劇作者の思いは、露と消えました。

では、明後日の 10 月 28 日、NHK の講座でおめにかかりましょう。お気をつけてお出かけください。

都築正道